

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372900585		
法人名	株式会社 東海ケアグループ		
事業所名	グループホーム なごみや 1階		
所在地	愛知県刈谷市ヶ谷町久伝原41		
自己評価作成日	平成27年 1月25日	評価結果市町村受理日	平成28年 6月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JiyosyoCd=2372900585-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成28年 1月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のどかな自然にも恵まれた環境にあり、入居者様にとっても、医療連携をとり、健康面の関わりを大切に、元気な笑顔で、一人一人のペースに合わせて、日々の生活をサポートし、充実した日常を提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市街地から離れ、車通りからも奥まった農地の点在する日当たりのよい住宅地に位置している。徒歩での散歩が可能な公園が近くにある恵まれた環境にあり、地域との交流も活発化してきた。休耕田の無償貸与を受けて利用者と共に野菜を作り、収穫して季節感を味わう楽しみも続いている。現管理者は、当ホームで長年介護職員として従事したのち昇任した経緯もあり、ホームの内情に詳しく、利用者や職員からの信頼も厚い。ホームの理念である「元気な笑顔でその人らしく普通に暮らす幸せ」の実現のために、細かな配慮と支援の姿勢が感じられ、職員の力量アップにも繋がるものと期待できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	申し送り時に、理念を復唱し、全職員に意識付けをしている。	「元気な笑顔でその人らしく普通に暮らす幸せ」を理念としている。毎朝の唱和、事業所内掲示で浸透を図り、これに基づき年2回個人目標を立てて評価し、理念に沿ったケアの実現に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外出に出かけた時は、顔馴染みの人との挨拶を交わし、ボランティアの受け入れも行ってると同時に、地域の催し物に出来るだけ参加するように、努めている。	回覧板で地域の行事を把握し、盆踊りや秋祭り、敬老会の集まり等に積極的に参加している。祭りでは、子供会の神輿が事業所を訪れている。近隣にある大学との交流は長く、毎年学園祭に出かけている。	運営推進会議等を活用して事業所をPRし、地域交流を一層活発化されることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回は、地域会議を実施し、地域の方と話す機会を設けている。地域の行事にも、できるだけ参加できるように、今後、努めたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域運営会議の参加に、1名の入居者代表としての参加を、依頼し、日々の暮らしの意見を話してもらう様に促している。	運営推進会議は、家族代表、地域代表、行政を招いて年6回偶数月に開催している。参加者からは地域行事の案内や行政のアドバイスを受け、事業所の取り組みを報告して有意義な会議となっている。	知見者として、交流のある近隣ホームとの相互参加の実現を期待する。目標達成計画の発表及び計画進捗状況の報告を議題に取込まれることを望みたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域運営会議の主席に、声を掛けさせてもらったり、市役所に足を運ぶようにしている。介護相談員の受け入れも行って。	市・担当職員と地域包括支援センター職員の両者が運営推進会議に参加しており、事業所の現状は適時伝わっている。市主催の研修会に参加したり、訪問機会を捉えて連携が深まるよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、職員は研修を受け、理解し共通認識をはかっている。転倒リスクの高い入居者に対しては、家族に同意してもらい、夜間センサー使用している。	拘束の一切ないケアを目標として、研修、会議等で周知徹底を図っている。夜間の転倒防止等、安全確保のためやむを得ないケースもあり、家族の同意を得てセンサーを設置している。しかし、これも最低限に留めるよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止に努め、そうならない為の心構えを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個人情報の取り扱い制度の理解をし、全体で把握できる様に申し送りを行い、定期的に勉強会が出来る様にしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	話し易い環境作りに努め、時間をとって、説明できる様に配慮している。疑問な点があれば、随時相談できる様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時と、月1回のお手紙などで、入居者の状況を伝えている。家族からの、要望や苦情に対しては、職員で共有し、速やかに対応できる様に努めている。	年2回開催される家族会や運営推進会議のほか、家族の来訪時や随時の電話連絡で家族意見の聞き取りを行っている。家族の来訪は頻回で、良好な関係が築かれており、家族アンケートの満足度は高い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、リーダー会議を月1回実施し、個別面談を年2回し、職員の意見を反映できる様に心がけている。	毎月のユニット会議や年2回行われる個人面談で、職員意見の聞き取りを行っている。職員意見から休憩時間の確保のため業務の流れを見直すなど、職員意見を運営に反映する取り組みが見られる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の個別懇談で、職員の思いや、目標、研修の要望を聞き取り、他にも相談があれば、時間をとって、対応できる様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修が受けられる様に、助成金制度があり、希望研修が受けやすくなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	積極的に研修や、勉強会に参加し、交流する事で、質の向上を目指していける様に努めたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様と、話し合う機会を作り、良好な関係を築けるように、努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	定期的に、家族と連絡を取り、出来るだけ、家族の要望を受け入れられる様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の要望に合わせて、入居者様の必要としている物も交えて、全体で話し合い、対応の仕方を検討できる様に、努めていきたい。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーション作りから、状況に応じて、入居者様にお手伝いをしていただいているが、共に過ごせる環境作りにも努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様と、家族との時間を大切にできる様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の寂しさが少しでも、軽減できる様、傾聴したり、安心してもらえる様に努めている。年賀状、暑中お見舞いを通じ、馴染みの関係を支援している。	友人からの電話や、家族の支援を受けての墓参り等、馴染みの関係が継続している。生け花や習字、新聞購読、化粧品の使用等の趣味や習慣の継続もある。本年、全員分の写真入り年賀状を作り、好評を博した。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が、入居者同士の関係を把握し介入し、お互い関わりあえる様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の連絡を下さる方もみえ、電話での相談等には、対応できる様にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中や、入浴介助時に本人の要望や意向を聞き取れる様に、時間を設け、ケアプランに反映している。	家族の話や生活歴を参考に、利用者に問いかけて会話を多く持ち、意向の把握を行っている。入浴時や夜間等の一对一の時間はより深く話ができる機会と捉えており、個々の思いをくみ取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を使用して、全体で共有できる様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや、個人ファイルに記録を記入し、入居者様の状態が把握できる様にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員によるモニタリング、会議での話し合いを元に、介護計画を作成している。	2ヶ月に1回モニタリングを行い、6ヶ月に1回の定期と状態の変化時や意向の変化時に計画の見直しを行っている。家族の意見やカンファレンスで話し合った結果を反映した介護計画を作成している。	介護計画の「支援内容」に、日々のバイタルチェックまで盛り込まれているが、利用者固有のポイントを絞った支援項目を挙げるのが望ましい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートの活用で、全体で情報を共有できる様配慮している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況に合わせて出来るだけ、ニーズに対応出来る様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアによる慰問は、入居者様の楽しみに繋がってはいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に、聞き取りを実施している。かかりつけ医の適切な医療を受けている。	月2回、ホーム協力医による往診と、週1回医療連携の訪問看護師による健康管理が行われている。専門医への受診は原則家族対応であるが、情報提供や受診報告で連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけの訪看を1週間に1回ラウンドしてもらい、密な連携がとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、早急にサマリーを届けたり、定期的に面会に行き、情報や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要に合わせて、家族や医療に関わる関係者も踏まえ、カンファレンスをし、急変時の確認書を見直してもらう様にしている。	医療行為が発生しない限りはホームでできる限りの対応を行う方針であり、入居時に利用者や家族に説明して了解を得ている。ターミナル期に際しては、家族、医師の協力の下、随時話し合いをもって対応し、看取りを行った実績がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの研修に、順番で受講できる様になっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練と、年1回の地域の防災訓練に参加し、地域との協力体制に努めている。	年2回夜間想定を含めた避難訓練と消火訓練を行っており、ホーム駐車場を避難場所に設定している。次回訓練では地域からの参加を予定しており、地域で開催される防災訓練に参加することも検討している。	消防署・地域消防団への参加要請及び地域協力者への呼びかけも重ねていかれることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人を尊重しての言葉かけや、対応を行える様に意識している。プライバシーの尊厳の研修を取り入れてる。	「丁寧な言葉で声かけし、穏やかな気持ちで接することで利用者の気持ちを和らげ、人格を損ねない工夫をしている」との話が聞けた。排泄や入浴の支援では羞恥心に配慮し、研修を通じて意識の向上を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人に合った声かけや、自己にて意思が伝えられる様な声かけに工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりのペースに合わせ、入居者様の言葉や行動に気付いて、くみ取る様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、自分で選びやすい様に、整理に心がけ、身だしなみにも心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と共に、野菜切りしたり、片付けの機会をつくり、畑で育てた野菜や近所からの野菜を取り入れて、調理している。	配食材業者による献立に従って調理を行い、利用者の希望には誕生日の特別食や行事食、毎月のおやつレクで対応している。利用者は、食事の下準備から片付けまで、個々の能力に合わせて活躍している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は、業者に委任しているが、その人にあつた形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週2回の義歯の消毒を行い、毎食後の誘導を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼夜共に、個人のパターンに合わせ、排泄チェック表に記入する事で、共有し少しでも自立できる様に支援している。	適切な声かけ誘導で、トイレでの排泄を支援している。支援方法はスタッフ会議で話し合い、その結果状態が改善した事例もある。夜間もポータブルトイレを活用し、極力オムツを使用しない支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳や食物繊維を提供し、ひとりひとりに合わせた工夫をして、取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴希望あれば、その都度対応しているが、時間帯までは、好みの時間に対応ができていないと思われる。	2日に1回の入浴を原則としているが、希望があれば毎日でも入浴できるよう支援している。シャンプーやボディシャンプーは個々の好みの物を使用し、同姓介助の希望にも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全体的に、休息はとれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月2回の主治医の往診、居宅療養管理指導で薬剤師をとり、処方箋での説明を把握し、副作用の注意点に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の関わりを意識して、外気浴や散歩、日常的無理な事は、行事時や、誕生日の日に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全入居者が希望に沿っての外出が、なかなかできてない為、今後少しずつ増やしていきたい様に努めていきたい。	少人数に分かれて日常的に散歩し、個々の希望に沿った買い物にも出かけている。喫茶や外食、季節のイベント外出と、計画的に担当職員が企画しており、職員数の充実に伴って外出の機会は増えた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様のおこずかいは、事務にて管理している。人によってはあるが、外出時に自身で支払いが出来る様に、配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状や暑中見舞いを送れる様に支援したり、人によっては、家族に電話の対応の確認に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面や、フロアに花を飾る事で、季節感の工夫をしている。	明るいきりびんの壁には利用者の習字や作品が飾られ、入居前に製作した大きな絵画も飾られている。日当たりの良い玄関先にはベンチが置かれ、穏やかに日向ぼっこを楽しめるスペースとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアで過ごされる時に、気の合う人同士の配慮に努めている。居室とフロアの行き来を、自由に出来るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望があれば、馴染みの物を用意して頂いている。	夫婦で一部屋で一緒に暮らす利用者や、先立った伴侶の写真にお供えをしてお経をあげる利用者等、個々の思いに任せた居室作りである。家族の写真、孫の描いた絵、自身で活けた花と、持ち込みも様々である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差がなく、手すりが設置されている。トイレや居室の扉に名前を表示する事で、自己にて行ける環境に努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372900585		
法人名	株式会社 東海ケアグループ		
事業所名	グループホーム なごみや 2階		
所在地	愛知県刈谷市井ヶ谷町久伝原41		
自己評価作成日	平成27年 1月25日	評価結果市町村受理日	平成28年 6月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_2015_022_kani=true&JjgvsvoCd=2372900585-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成28年 1月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

天気がよい日は散歩に出かけ、畑には大根や白菜を植え、入居者様と一緒に収穫し季節を楽しんでいます。 また地域の方も来て収穫したものを下さいます。長年この地にいることで少しずつ地域の方に周知していただけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に理念を唱和することで、ケアの方向性の意識づけは行えているが、普段から地域との交流を図る機会には頻回には確保が取れていない。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会していることで、地域交流の機会が確保できている。また、散歩や近所への買い物時など地域の人と交流をとる機会がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて地域の方の御参加により、認知症の方への理解を深めて頂いていると思うが、より多くの方へ理解して頂く取り組みが行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議時に行事案内を頂き、施設の取り組み行事として活用している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時に連携を図り、協力関係に努めることができている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間研修計画を作り取り組んでいる。やむをえず、夜間センサーコールを使用するときなどは家族同意のもと使用する又、最低限に留めるよう努めている。玄関の施錠に関しては施錠した時間の記録とともに、やむをえない場合最低限行うなどルール化して取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間研修計画を作り取り組み職員への意識づけや必要時には都度指導を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見制度を利用している方がいて、かかりつけ医への鑑定書の依頼手伝いなどの中で学ぶ機会がある。しかし限られた職員の関わりのため全体研修として取り入れていきたいと考える。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が説明と同意のもと家族への説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。家族の来所時に積極的に関わることで意見や要望を言いやすい関係づくりに努めている。運営推進会議で参加頂いた方からの客観的な意見や質問を改善事項として取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議やリーダー会議を通して職員意見の吸上げを行い、運営の取り組みとして反映している。また、個別面談にて職員の意見や考えを聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談や会議時などで職員が行ってきた取り組みを評価、反映する機会を設け働きやすい環境づくりに努めている機会であると思われる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が職員の能力に応じ、外部研修への参加取り組みの機会を設けている。また、社内研修にて職員が講師を行い務める機会を課している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	限られた職員のみ同業者との交流はあるが、多くは同業者との交流を通じた向上の取り組みは設けられていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設に慣れることを第一に考え、自分らしく過ごせるよう本人、家族の聞き取りなどアセスメントを行う、職員からの日々の様子の情報確認を行うなど本人の意向を把握できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居以前に関わっていたケアマネ、包括、MSWなどから情報を得ながら面談に臨み、家族が思いを伝えやすいように配慮を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設利用と併用して必要するサービス利用が必要な場合は対応行っているが、困難な場合は他施設への申し込みや病院の紹介など行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	重度で自身の意志表出が難しい方には職員側が考え支援の提供を行っていることが多いが意志表出が可能な方には、得意な分野で活躍できる場の支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との外出や共に過ごす機会を設けることで、施設内での生活が落ち着いて過ごせる方もみえ、ケアプランの家族との関わりを継続して組み込んでいる方もいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	実際に家族、親族以外の旧友の方の面会があり、施設も来所を受け入れている。また、月一回程度の頻度で県外の妹からの電話や自宅で飼っている犬など連れてきて下さる家族もいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握行い、食事席やくつろぐ空間での席配置を考慮している。また、居室に閉じこもっていないか		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去の理由で最も多いのは入院である。入院中に家族からの電話やお見舞いを通じ、状態の把握に努めている。話を聞くことで、家族の精神面のフォローになればと努めている。退去後の積極的な関係性の保持には努めていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話やモニタリングの中から思いや意向の把握に努めている。思いを言葉で表すことが難しい方へは表情や仕草で推測するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族にセンター方式のシート記入の依頼を行っている。家族からの情報や日常生活の会話から生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活観察、月1回のかフェンス、2カ月毎のモニタリングにて現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のかフェンス時やモニタリング時などケアについての話し合いを行っている。又、日常の中から本人・家族の意向や医療関係者の意見もふまえて介護計画作成を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの実践取り組みを個別記録に記入欄を設け把握に努めている。実践状況の把握を個別記録を参照にモニタリング時に活かし、計画の見直しに繋げている。記録漏れの改善余地あり。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新しいニーズに対し実現することができるか、都度話し合いを設け検討を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や近所のスーパーへ出かけている。又、例年、地域行事の芸能祭や盆踊り、避難訓練、近くの大学の学園祭などに参加しており、入居者の楽しみとなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時希望されるかかりつけ医の確認を設けている。施設の協力医による月2回の往診を受けており、気軽に相談できる関係性を築けている。他院受診されている方は、受診後の経過報告を家族、必要時には医師へ報告書を渡している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設職員に看護職はいないため訪問看護ステーションと連携をとっている。週1回の訪問時や電話にて相談を行い適切な処置や助言を頂き支援行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には主治医からの紹介状や介護サマリーを渡し、入院加療に活かせるよう配慮している。退院の際は病院へ出向き医師や看護師から情報収集を行い退院に向けての準備や必要時に担当者会議を設けるなど退院の支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に関し、担当者会議を設け医師、訪問、薬剤師の意見も踏まえた上で、ご家族の意見を考慮した上で支援の方向性の確認を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	正社員に関しては消防署主催の救命講習に参加行っているが、パート職員など実践力不足の職員もいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練及び自主点検を行っている。また年1回備蓄品の在庫確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修にてプライバシー保護の研修を取り入れ再確認する機会を設けている。又、内容により話をする場所を配慮して行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物や入浴、レク活動など日常生活での参加有無の自己決定を行う機会を設けている。又、モニタリングやアセスメントを通じて本人の思いや意向をくみ取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や喫茶など決まった時間で過ごすことが多い。入浴の希望時間、食事を摂る時間をずらしている方がいるなど一部は希望に沿って支援行っているが、夜入浴したいなど希望にそえていない取り組みもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自宅で使用していた衣類や家族が選んだ衣類を持ち込んでいるため、その人らしさは出ていると思われる。定期的に職員が衣類整理を行い自己にて衣類を選定できる方への支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理準備や配膳、片付けなど利用者様ができることを声かけ行い職員とともにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養に関しては食材業者へ委託しているため栄養バランスは整っていると考える。各自の摂取量に応じ形状を変えたり捕食の対応を行っている。水分量に関して状況に応じジュースの提供など水分確保が取れるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ブラシや洗口液など個々にあった方法にて口腔ケアを行っている。定期的に訪問歯科や歯科検診を行い口腔状態の確認に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿間隔を把握し、トイレの声掛けや誘導を行っている。パッドやオムツの使用機会減、布パンツへの移行が可能か検討行い、自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳や食物繊維の入った食品など用い便秘の解消に努めている。それでも排便に至らない場合は薬剤コントロールを行っている。便秘解消の運動やマッサージへの取り組みができていないため努力したい。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員の都合で回数の制限や日中のみの入浴対応となっている。入浴順番など希望に応える支援を行っている又、拒否がある場合は清拭や足浴など行い清潔保持に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床や休息など本人の状況に応じ、室温や照明、エアコンの風向きなど配慮し安眠できる環境作りの支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ほとんどの入居者様が薬剤師による管理指導を受け入れているため、相談を行える体制は整っている。その反面職員の薬に関する理解が弱い面がある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜作りや水やりなどの外仕事、家事や書写、ドリル学習、針仕事など屋内で楽しめる活動や気分転換の支援を行っている。役割の負担が同じ入居者様に偏らないよう配慮を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	誕生日や行楽時の場所など希望の沿った外出支援を行っていることはあるが、機会が少ないため日常での散歩や買い物など近隣への外出は計画的に支援できるよう努力する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な入居者様は財布の管理や買い物時の支払いを行っている。8割くらいの方は施設にてお小遣いを管理行い使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	限られた方だが、持参の携帯電話での家族への連絡のやりとりを行っている。基本、電話をかけたり、取り次ぐことの禁止はしていないが、不穏な状態での家族への電話は控えるようしている。毎年年賀状を家族へ送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れるため壁画や季節の花を飾るなど工夫を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者間の相性を把握行い食事席やくつろぐ空間となるソファの席など配慮行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や思い出の写真など家族へ連絡行い持参頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やベッドなどに手すりをつける、ポータブルトイレを設置するなど少しでも安全かつ自立した生活が送れるよう配慮している。		